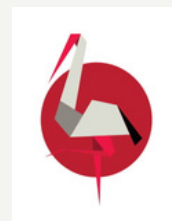


社会福祉法人 福田会 週次報告書

2023年1月17日 / Vol. 035



1月9日(月)～1月15日(日)の支援活動

支援所への支援物資提供

レストランプロジェクト

食材支援



食材支援で母親の買い物を手伝う子ども。小さな子どもから10代の学生まで、親子そろって買い物に参加している家族の姿が多い。

ご支援総額

2023年1月12日までの寄付総額 116,602,091 円

寄付金使用総額 3100631.61 zł (約8992万円)

1/9(月)～1/15(日)の期間中の寄附金使用額

43408.29 zł (約126万円)



活動内容

支援所への支援物資提供

カリタス支援所とPeron4支援所へ、週に1度の支援物資の買い出し支援を実施。クラクフ中央駅のカリタス支援所は、現在は火曜～金曜日の 12:00 ~ 15:00 で運営しており、一日あたり約80人の避難民が訪れているという。スタッフ不足もあり、福田会ボランティアも購入物資のパッキング作業を手伝っている。



レストランプロジェクト

市内レストラン2店舗と協力し、無料で温かい食事を提供。今週は2店舗で約400食を提供。

参加レストラン・BENTO用の無料クーポンは、Peron4支援所と、昨年一時的に設置されていたクラクフ中央駅前の支援所利用者を対象に配布している。



食材支援（毎週金曜日）

今週は27家族に1週間分の昼食用食材を提供。一人あたり50złの予算を設け、合計で4019.11 zł（約121,000円）分の食材を購入。

現在、食材支援に登録されている参加家族数は、29家族、計80名となっている。





現地の動向

12月のウクライナの首都・キーウの気温は氷点下前後で推移し、前線であるドネツク州の町・バフムートはマイナス11度まで気温が下がった。

ウクライナ政府は、インフラ設備への攻撃により深刻な電力不足に陥っていることを受け、東部から避難して来た市民たちに対し、冬の間は海外に滞在するように促している。

夏の間には避難民の移動が減少し、多くの支援所は支援規模を縮小したが、冬場の戦争の影響を受け、ルーマニアやポーランドなどの近隣国では、わずかに避難民の増加が報告されている。

福田会の支援先も、越冬のために避難してくるウクライナ人家族の増加が顕著であり、物価とエネルギー価格の高騰に直面しているポーランドで、長い冬を乗り越えるための受け入れ先のキャパシティオーバーが懸念されている。



(出典 <https://www.aljazeera.com/gallery/2022/12/23/after-heavy-combat-in-eastern-ukraine-residents-brace-for-cold>)